

群 教 七	G 10 - 01
	平 25. 251 集
	中・道徳

いじめ防止の心を育てる道徳の授業

ーグループ間での意見交換と振り返り活動の工夫を通してー

特別研修員 清水 誠

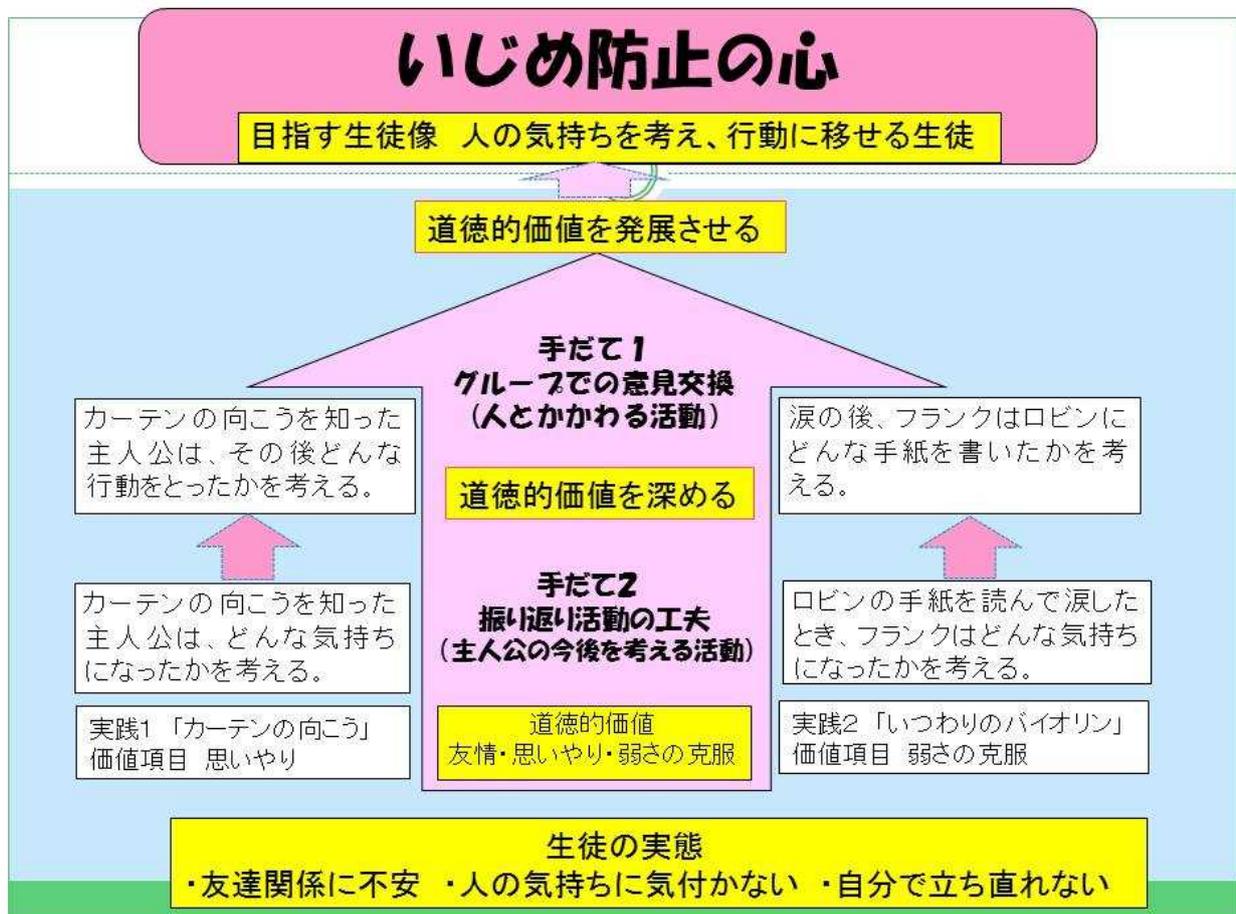
I 主題設定の理由

『はばたく群馬の指導プラン』（平成24年3月）では、生きる力の3要素の一つである「豊かな心」について、児童生徒に身に付けてほしい心の在り方が示された。また、今年度群馬県では、いじめ問題対策推進事業を立ち上げ、全県でいじめ防止の取組にあたっている。その中で、いじめを許さない気持ちや態度を育てるとともに、いじめの未然防止に資するとある。取組の重点として児童生徒が自分たちの力でいじめをなくす活動が挙げられている。

本学級の生徒は、人が困ったり、悩んだりしていたら進んで助けたいと思っているが、自分から行動に移せない生徒が多い。また友達関係に不安を抱えている生徒や人の気持ちを考えない言動をしてしまう生徒、少しのことで傷つき立ち直れなくなってしまう生徒も見られる。道徳的価値を深める場面でグループ間での意見交換を行い、友達の考えを聞いたり、かかわったりする中で、友情や思いやり、弱さを克服する心を育てる必要がある。また、資料における主人公の今後を考える振り返り活動により、道徳的価値を自分とのかかわりで発展できるようにする。このような道徳の授業実践を通して、人の気持ちを考え、行動に移せる生徒を育成し、いじめ防止の心を育てる必要があると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究の構想図



2 授業改善に向けた手だて

主題名「カーテンの向こう」【価値項目2－(2)思いやり】において、友だちとの意見交換により、道徳的価値を深め、その後、道徳的価値を自分のこととしてとらえられるように、終末の振り返り活動を工夫し、以下の点に留意して実践を試みた。

実践1による研究上の手だて

- 自分の立場を明確にし、そう考えた理由を意見交換する。
- 終末の振り返り活動において、資料には書かれていない主人公の今後の行動を考える。

価値項目の2－(3)思いやりの気持ちに気づき、考えを深めるための発問、活動であったが、今回の授業では「相手への思いやりの心」と「相手の思いやりに気付く心」の両面から思いやりの価値に迫っていくことをねらいとした。しかし、答えが2つに絞られる発問だったため、「ヤコブと同じようにする」が31名、「本当のことを話す」が6名と意見が偏った。そこで、グループでの意見交換ではなく、多数派の意見を聞いた後、少数派の意見は全員に発表させ、自分の考えとの違いに気付くようにした。多数派の生徒も違う考えに納得した様子だった。生徒の意見交換の中で自分と他者との考えの違いに気付くことができれば、さらに道徳的価値を深めることができると思われる。

そこで、主題名「いつわりのバイオリン」【価値項目3－(3)弱さの克服】では、次のように手だてを改善した。

実践2による研究上の手だて

- 発問の場面や内容を選び、多様な考えが出るようにし、グループで意見交換する。
- 終末の振り返り活動で、資料には書かれていない主人公の手紙の内容を考える。

今回は、フランクが涙を流したときの気持ちを問う発問であったため、多様な意見が出て、グループで活発に意見交換する様子が見られた。謝罪、後悔、感謝など複雑な気持ちから流された涙であり、主人公の心の苦しみを生徒が理解し、考えを深めることができた。その後、主人公がどんな手紙を書いたかを考える活動では、多くの生徒が涙によって前向きな気持ちを取り戻せたことに気づき、謝罪や感謝の気持ちだけでなく、今後の主人公の決意を書くことができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 以前は友だちの意見を否定したり、自分の意見に固執したりしてしまう生徒も見られた。しかし、二つの授業実践の中で、自分とは違う友達の意見をうなずきながら聞いたり、感心したりする場面が見られた。人の気持ちを考えようとする姿が見られるようになった。授業後に学校行事でグループ編成を行うときも、友達のことを考えながら、生徒同士で主体的に意見交換しながら短時間で決めることができた。集団として思いやりの心をもつ様子が見られ、いじめ防止の心の育成に役立ったと考えられる。

2 課題

- 授業後の感想を見ると、今後こうしていきたいという自分の気持ちが書けない生徒も見られた。心情面の高まりは見られたが、行動に移すことができるという面で課題が残った。

3 提言

- いじめ防止の心を行動に移すために、道徳の授業と県はいじめ問題対策推進事業の児童生徒主体のいじめ防止活動との関連を図る。
- 道徳の年間指導計画を見直し、計画的にいじめ防止につながる道徳的価値を取り上げる。
- 実践1については2学年の全学級で行ったが、教員同士の共通理解が図れてとても効果的だった。さらに有効ないじめ防止の取組として、学級だけでなく、学年や学校全体で実践を協力して行うことが大切である。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 主題名 「思いやり」 内容項目 2-(2) 温かい人間愛 (中学2年)

資料名 「カーテンの向こう」※一部改作 (心つないで)

2 本主題及び本時について

本資料は、重症患者がベッドを並べて横たわっている病室でのやりとりである。そこには起きあがることもできない患者ばかりで、見舞い客も来ずに何の楽しみもない。そんな辛い日々を送っている患者にとって唯一の楽しみは病室の閉ざされた窓に一番近いヤコブが、体をやっとの思いでねじ曲げながら、カーテンのほんの小さな隙間に顔を突っ込んで外の様子の話してくれることである。しかし、主人公である私は、ヤコブだけが外の世界を見られることをうらやましく思い、不満をもち、何となくヤコブを憎らしいと思うようになってきた。そして、ベッドを替えてほしいと思っても、頑としてゆずろうとしないヤコブを死ねばいいと思うようになる。そして、ヤコブが亡くなり窓際のベッドに移動し、期待を膨らませてカーテンの隙間をのぞき込むと、そこから見えるものは冷たいレンガの壁であった。

導入部分では、資料の内容と同じような体験をし、資料の世界に入れるようにする。そして、資料の前半部分と後半部分を分け、物語の結末が分からないようにし、資料を読んでいく。その後、実際にカーテンの向こうにレンガの書いた絵を用意しておいて、結末を知らせる。そこで、ヤコブがどうして嘘の話をしていたかを考えることで、相手の思いやりの深さに気付くことができるようにする。終末場面では、資料には書かれていない窓際のベッドに移った私の行動とその理由を考え、意見交換させることで、思いやりの心とその相手の思いやりに気付くことの大切さに迫りたい。

3 授業の実際

○導入 一人だけカーテンの向こうを見る生徒を見て、どんな思いをするかを体験する。

導入部分で代表の生徒がカーテンの向こうに描いてある絵をのぞいて、その様子を他の生徒が見ているという資料の内容と同じような体験する活動を動作化で行った。カーテンの向こうを見られた〇〇さんについてどう思いますかと尋ねたところ、「うらやましい」「ずるい」などの声があがった。そこで、今回の資料の内容であるカーテンの向こうで同じような場面が出てくることを話し、話の舞台となる病院の暗い様子を絵で説明し、資料に入った。生徒は、動作化や絵を見ることによって、資料への興味をもつこと(道徳的価値への方向付け)ができた。



図1 病院の様子を絵で説明する場面

○発問1 ヤコブが死ねばいいのにと考えた私についてどう思いますか。

資料は終末場面が書いてないものを配布し、主人公やヤコブの人柄について確認し、主人公の心情を考えた。最初の発問として「ヤコブが死ねばいいのに」と考えた主人公の考えについて聞いた。そこで、ヤコブの自分勝手な行動を憎いと考えた主人公に対して「そう思っても仕方がない」と思った生徒と「死ねばいいは、いくら何でもひどい」と思った生徒の二つの考えに分かれた。後者の考え方をした生徒が多かったが、「死ねばいいのに」という言葉のみから感じているだけで、客観的立場から主人公の考え方を理解することができていなかった。しかし、主人公を客観的に見てどう思うと聞いたところ、主人公の「ヤコブが死ねば窓際のベッドを独占できる」という考えも、ヤコブと同じで自分勝手であると気付くことができた。

○発問2 カーテンの向こうを見たとき私はどんなことを思ったでしょう。

終末部分を読み、最後のカーテンを開ける場面を動作化し、視覚と聴覚両方で実際にレンガの壁であったことを知らせた。すると一人の生徒が「ヤコブやさしい」とつぶやいた。次の発問に移る前に、ヤコブの

本当の思いに気付いた生徒も見られた。そして、二つ目の発問である「カーテンの向こうを見たとき私はどんなことを思ったでしょう」について考えさせた。すぐに「ショックだった」「絶望した」と発言したので、補助発問として「ヤコブはどうして嘘の話をしていたと思う」と聞くと「みんなに生きる希望を与えるため」と答えた生徒がいた。次に「その思いに主人公の私は気付いたと思う」と聞くと気付いたと思う生徒が全員であった。

学級での意見交換の様子	
<p>◎発問3 窓際のベッドに移った私は今後どうしていくと思いますか。また、その理由は。</p> <p>T「窓際のベッドに移った私は今後どうしていくと思いますか」 S「ヤコブと同じようにする」 A S「本当のことをみんなに言う」 B という2つの意見が出た。そして、それぞれの考えをA、Bとした。 T「自分の考えはどちらに近いですか。またなぜそう思いますか」 結果、Aが33名でBが5名であった。意見が偏ったため、少数意見が弱くならないように学級全体での意見交換を行った。 T「Aを選んだ人はなぜそう思いましたか」 S「みんなを喜ばせたい」 S「生きる希望を与えたい」 T「Bを選んだ人はなぜそう思いましたか」 S「自分と同じようなショックを受ける人が出ないように」 S「ヤコブの本当の思いをみんなに伝えるため」 後者の考えには、気付かない生徒が多く、友だちの意見に共感する生徒が多く見られた。</p>	<p>『カーテンの向こう』 『カーテンの向こう』を読んで私の気持ちを考えよう。 ● ヤコブを死ねばいいと思った私をどう思いますか。 ● 同じ教室の仲間だから、あまりにもひどすぎる。 思いやりにはいろいろあることに気付くことができました。 ● 少しでも希望に届くのなら、自分以外の外 ● 今日の授業を振り返り、今後の自分の生活にどう生かしていけるかを書きましょう。 道徳で「思いやり」...って何でやるんですか？ 今の授業は、いつもと違う授業の「思いやり」って何でやるんですか？</p>
図2 生徒のワークシート	
振り返り活動（資料に書かれていない今後を考える）	
<p>○終末 友達の意見を聞いて、主人公がどうしたと思うかを考え、授業の感想を書く。</p> <p>T「みんなの意見を聞いて、主人公はその後どうしたと思いますか」 S「ヤコブの思いをみんなに伝えるという考えは気が付かなかったけど、私はやっぱりヤコブと同じようにしたいと思います。本当のことを知るの辛いと思う」 最後の活動として、導入で見せたカーテンの向こうにある絵を全員に見せた。そこには、「思いやりの詩」を描いておいた。そして、その詩が使われている映像を見せて、感想を書かせた。</p>	
<p>「思いやりの詩」 こころはだれにも見えないけれど、こころづかいは見える 思いは見えないけれど、思いやりはだれにも見える</p>	<p>図3 振り返り活動の様子</p>

4 考察

- 主人公のその後の行動と理由を考えた場面で、自分の考えとの違いを聞くことで、相手の思いやりを知ることと思いやりを行動に移すことの大切さに気付くことができた。
- 友だちの意見に黙ってうなづく場面やワークシートで友だちの意見に感心したことが書かれており、以前の授業よりも人の気持ちを考えようとする姿が見られた。
- 意見交換の場面で、グループでの意見交換ではなく、学級全体でそれぞれの意見を聞くように変更した。今後は、生徒の意見が多様に出る場面や発問を工夫し、意見交換させることが大切である。
- 生徒の感想を読むと、思いやりの大切さに気付くことができた生徒がほとんどであったが、自分のことに置き換えて感想が書けた生徒は少なかった。自分のこれからの行動を視野に生徒に問いかけてもよかったと考える。

実践 2

- 1 主題名 「弱さの克服」 内容項目 3-(3) (中学2年)
資料名 「いつわりのバイオリン」※一部改作(自分をみつめて)

2 本主題及び本時について

バイオリンづくりの師匠フランクは、弟子のロビンが作った作品を自分のものと称して著名な演奏家に提供してしまう。尊敬する師匠の、目を疑いたくなるような行為に弟子のロビンは衝撃を受けるが、その後黙々とバイオリンづくりに励む。弟子が作ったバイオリンに自分のラベルを貼ってしまったフランクは、そのことをロビンに打ち明けることができず次第に心を荒廃させていく。そんなフランクを見ているのが辛くなったロビンはフランクの元を去り、故郷でバイオリン職人として腕を磨いた。やがて、その他の弟子達も次々とフランクの元を去り、フランクは落ちぶれてしまった。そんなフランクにロビンから手紙が届き、フランクはそれを見て涙を流す。そして、便りをしたためようと筆を握る。

導入部分で中心発問につながる発問をし、自分と主人公の心情を重ね合わせて考えられるようにする。フランクがロビンのバイオリンに手を伸ばしてしまったときの気持ちを考え、自分にも弱い心があることに気付くことができるようにする。その後の中心発問で涙を流したフランクの気持ちを考え、意見交換させることで、涙の意味や人の複雑な気持ちに気付けるようにする。

終末部分で、資料には書かれていない手紙の内容を考えることで、涙を流した後のフランクは、後悔や謝罪の気持ちだけでなく前向きな気持ちを取り戻したことに迫りたい。

3 授業の実際

○発問1 ロビンのバイオリンに手を伸ばしたとき、フランクはどんなことを考えたか。

導入で、「最近、涙を流した人はいますか」と聞き、次に「どんなときに涙が流れるか」と涙を流すときの心情について考えさせた。生徒からは、「悲しいとき」「感動したとき」「悔しいとき」など次々と意見が出た。涙を流すときは、気持ちが高まったときであり、自分でも分からない複雑な心情があることを確認した。そして、今日の資料は、涙を流す場面が重要であることを触れ、資料に入った。

○導入 人が涙を流すときの心情について考える。

資料を読み、最初の発問をした。「演奏会は成功させたいけど、勝手に使ってはまずい」という意見が出た。その後、「バイオリニストに悪い」「このバイオリンがあれば、演奏会が成功し、地位や名声を得られる」という意見が出た。生徒は、バイオリン職人として地位や名声を得たいという自分の弱い心とやってはいけないことがあるという良心が葛藤していることをよく理解できていたと考えられる。

グループでの意見交換の様子

◎発問2 ロビンから届いた手紙を読み、涙を流したときフランクはどんなことを思ったか。

二つ目の発問は、ワークシートを配り、それぞれの意見を書かせた。そして、4～5人のグループで意見交流を行った。

A 「ロビンに申し訳ない」＝謝罪の涙

B 「取り返しがつかない」＝後悔の涙

C 「ロビンの優しさがうれしかった」＝感謝の涙

という3つの意見にまとまった。その後、「どの気持ちが一番大きかったと思う」と聞いたところ、「分からない」「難しい」という意見が出た。「それぞれの思いが重なって出た涙なのではないか」という意見も出た。そして、フランクの涙の後の行動に注目させ、「どう

して手紙を書こうという気持ちになったと思いますか」と聞いたところ、「フランクに謝りたい」「フランクに感謝の気持ちを表したい」という意見が出た。



図4 意見交換の様子

して手紙を書こうという気持ちになったと思いますか」と聞いたところ、「フランクに謝りたい」「フランクに感謝の気持ちを表したい」という意見が出た。

資料に書かれていない主人公の今後を考える場面

○発問3 フランクは手紙にどんなことを書いたと思いますか。

T 「フランクはロビンにどんな言葉を書いたと思いますか」

S 「ロビン、バイオリンのこと本当にすまない」

S 「ロビン、許してくれてありがとう」

という、ロビンへの謝罪と感謝が一番多かった。

S 「もう一度バイオリン作りを頑張る」

S 「また、ロビンと一緒にバイオリン作りに励みたい」

ロビンともう一度一緒にバイオリン作りをしたいという意見は、予想していなかった反応であったが、5名の生徒がそのように考えていた。ロビンの手紙によってフランクは、立ち直るためもう一度頑張ろうという決意をすることができたことを確認した。

○終末 自分のことに置きかえて、今日の話の感想を書く。

生徒の感想から

「自分の間違った行動は、謝れば許されるわけではないけど、その間違いを次に生かすことが大切。」

「失敗後、どうするかが大切だと思った。」

「フランクもあせっていたので、あのような行動をしてしまったんだと思います。僕もフランクのような感じになるときがあるかもしれません。でも、してしまったら謝ろうと思います。」

など弱さや失敗を自覚し、そこから立ち直り克服していこうという気持ちが、生徒の感想に書かれていた。

1. 『いつものバイオリン』を読んでフランクの気持ちを考えよう。
○ロビンから手紙をもらい、涙をながしたときどんなことを思ったか。

ロビンのバイオリンをバイオニストに渡してしまい申し訳ない、正直に言えばよかった。

○フランクの手紙何を書いたと思いますか。

自分がロビンのバイオリンを渡してしまったという謝罪の言葉、手紙を読んで感謝の気持ち、これから頑張るバイオリンを作り続けていくということ。

○今日
フランクのもう一度頑張っていきたいという気持ちに気付くことができた。

図5 生徒のワークシート①

1. 『いつものバイオリン』を読んでフランクの気持ちを考えよう。
○ロビンから手紙をもらい、涙をながしたときどんなことを思ったか。

バイオリンを完璧に仕上げたいでロビンに負けるのがいやだったけど、ロビンは自分を尊敬してくれていたことを手紙で知り、後悔と恥をかきとで涙がでてきた。

○フランク
これからの自分の生き方について書くことができた。

○今日の授業を振り返り、感想を書きましょう。

何度もうまく涙が出そうになってもちゃんと前を向いて正直に生きることが出来る人間になりたいと思います。

図6 生徒のワークシート②

4 考察

- 主人公の涙を流した場面で、意見交換を行ったことで、生徒は多様な意見を知ることができ、主人公の複雑な情に気付くことができた。
- 手紙の内容を書く活動では、涙によって前向きな気持ちを取り戻せたことまで、気付くことができない生徒もいた。そのため、終末の振り返りの活動で自分のこととしてとらえることができない生徒が出た。涙の後の主人公の気持ちと自分自身が涙によって気持ちを切りかえられた体験などをつなげられるような工夫ができるようになった。
- 自分のことに置き換えてという問いかけをして感想を書いたことで、「今後の自分を変えたい」や「これからは、もっと弱い心に負けずに強くなりたい」という意見が多く出た。
- 授業後の感想では、フランクのことだけでなく、人の間違いを責めるのではなく、相手の気持ちを考えた行動をしたロビンの行動を見習いたいという考えも書かれていた。前回の授業と同様に人の気持ちを考えるという姿勢が多くの子に見られた。